

「ようやく」の思い ～平成19年度を振り返って～

技術統括 向井 一夫



“業務依頼・派遣システム”は、今年度試行を開始、平成20年度から本格的な試行に入りますが、部局部門制の枠を越えた部門再編と合わせて

「ようやくここまで辿り着いた」と感じているところです。大学の教育研究に対して技術職員の持つ専門技術を有効に活かした人材配置を図るとともに、計画的・効率的・効果的に技術支援を行うことが技術センターの設立目的で、そのためにはどうすれば良いのかと設立時から検討を重ね構築して来たシステムが「ようやく」運用できるところまで来ました。システム試行のための説明・調整、並行して進めることとした部門再編のための説明・調整、人員配置計画についての説明と調整等々、技術職員、配属先教員、施設・部局、事務部への説明と調整の連続でした。頭の中にはいつも業務依頼・派遣システムと部門再編のことがあり、この一年間の活動を振り返ってみると本当に「ようやく」の思いであります。

4月初旬に副統括と二人で各研究科支援室長や課長に新任の挨拶を兼ねて技術センターの概況説明に回ることから始めた。その中で技術センターが今何をやっているのか、何をやろうとしているのか、一元化して何が変わっているのかと、設立3年が過ぎてもこのような声があったことにショックを受けて積極的な広報の必要性を感じていた時に、ある室長から「個別に説明するのは大変だから事務研修会（室長・課長がメンバー）に出席してはどうか」と提案があり、早速中旬にオブザーバー出席の機会をいただき現況説明。

以後、説明を要する節目節目で2度出席して業務依頼・派遣システム試行の進捗状況、部門再編についての考え方等を報告し協力をお願いした。皆さんの理解度は増し質問や意見も参考になることが多く、事務部の方向性や運営状況等情報を得ながら技術センター（大学構成員である技術職員集団）として大学にどのように関わるべきかを検討・計画・立案するために今後も継続的恒常的に出席を望むところです。

【専門分野のグループ化について I】

4月、次のような全学的ニーズに対して情報分野の技術職員のグループ化を開始。

- ①大学内 LAN の新システム移行に伴う情報セキュリティ整備への支援協力。
- ②教育室が目指す E-learning 活用強化に関する Web-CT 支援室への技術支援。
- ③震地区ネットワークの管理支援。

グループによる効果的な応援体制をとるために部門を越えて配属先の変更も行ったので最初は少し時間がかかった。配属先教員、情報メディア教育研究センター、情報化推進部へ理解・協力を求めての説明・調整に一度となく足を運び、最終調整にはセンター長にも出ていただいた。この体制を取って一年になろうとしているが技術職員間の協力によってグループ化の良い実績実例となり、動いた苦勞が報われ一元化の成果が出てきたことに喜びを感じています。又、RI 管理分野のグループ化についても関係部局に調整を始め、安全衛生分野も全学委員会からの協力要請を受けて検討を開始したのもこの頃です。

【業務依頼・派遣システムについて I】

4月中旬、1年後の“業務依頼・派遣システム”本格試行に向けて、第1回技術長会で説明を行い、18年9月に行った業務内容調査を基に仮業務依頼書を作成、続いて霞地区・東広島地区で全員説明会を開催して段階的試行が始まった。5月上旬にはセンター長が部局長連絡調整会議に出席され、現況の報告、業務依頼・派遣システムについてと人員配置計画について説明。5月、月次業務報告書基本項目の作成にかり、下旬に確認、6月分から全員が技術長に同報告書の提出を開始した。

【人員配置計画について】

5月中旬、人員配置計画について部局に伝達しましたが承諾できないとの意見があり、センター長と部局の人事委員会に出席して方針の説明を行って技術センターの計画が受け入れられたのは7月中旬であった。

【専門分野のグループ化について II】

6/26、同種資格を持つ病理・解剖・法医学講座配属の技術職員のグループ化を検討するために関係する教員8名、技術職員9名と事務部からも4名が参加して話し合いを行った。土・日等の急な受け入れ業務、解剖・試料作製等業務、技術職員の配属について講座間にアンバランス生じていること、新規採用者の育成等、効率化・協力化を図れないかを話し合った。「グループ化による業務分担も重要だが専門技術の習熟度・信頼度も重要で、技術レベルの安定・保証が必要」等の意見も出たが、技術職員のWGで検討することとした。現在も継続中で、今後は先生方にも加わっていただき、学生実習への関わり等要望や意見を聞きながら進めて講座を越えた協力体制を実現させ人材育成にも繋げたい。

【業務依頼・派遣システムについて II】

7月に副学長と懇談。業務依頼・派遣システム実施計画の説明、居室確保の要請等を行い、副学長からは業務依頼・派遣システム移行は部

局（長）を介して行うこと、部門の再編も早めではどうかとの意見があった。7月中旬の第1回運営会議では、部門再編の検討に入り次回運営会議までに再編案を作成して諮ることを報告し、公平性・透明性を確保して客観的な昇任人事を行うことを目的とした昇任試験実施要項が承認された。

【部門再編について I】

部門再編については、第2回・3回・4回技術長会で検討、部門に持ち帰り皆さんの意見を受けて技術長会で再検討を繰り返し、部門の構成案がほぼまとまったところで運営委員に個別に説明を行い、8月中旬の第2回運営会議で部門の構成案が了承され、班の構成については今後さらに検討することになった。8月下旬、技術長説明会・全員説明会を開催して部門数を6として今後班構成の検討に入ることを報告。所属が大きく異動する方には個別に面談をして意見を聞いた。

【その他の主な活動について I】

この間9月には、全学安全衛生委員会関連で衛生管理者に関するWGの立ち上げに協力・参加。技術センター仮居室として東図書館1階の1室の借り受けが決まり9月下旬から利用できるようになりました。副学長の裁量により備品の整備も心配していただきました。居室の確保は設立当初からの要望で、一歩前進した。

部門再編検討の最中9月に開催した第19回情報処理センター等担当者技術研究会は、準備・進行で情報グループと理学部等部門の技術職員による見事な連携・協力により無事終了した。

マネジメント研修の一環として、福岡大学で行われた大学行政管理学会にも参加。ディスカッション形式のワークショップでは私立大学の事務組織の取り組みを多く聞くことができた。リーダーや大学事務スタッフのあり方、評価方法やその問題点等をテーマとする真剣な意見交換で、このような形の討論は経験したことがなく不安でしたが始めてみると技術セン

ターが取り組んでいることにも共通する問題があり我々の取り組みや考え方について、つい熱弁をふるっていた。

【業務依頼・派遣システムⅢ、

部門再編について Ⅱ】

10月、技術長・班長向けに業務依頼・派遣システムの試行状況説明と部門再編案の提示をした後、東広島地区・霞地区で全員向け説明会を行った。情報部門には部門越えの異動をする技術職員が多く、その配属先教員には個別に説明して理解を求め、協力をお願いに回った。11月に入って運営委員に個別説明（予定していた運営会議が延期になったため）を行った後、11月末には学長・副学長に業務依頼・派遣システムの概要とスケジュールの説明を行う。部局長向け説明会と配属先向け説明を経た上で計画通り20年4月から本格的試行を開始することが了解された。12月上旬の第3回運営会議では学長・副学長説明会の内容を報告し、部門再編案（一部、部門名の変更を残して）、昇任人事案（副統括・技術長）が承認された。部局長向け説明会では技術センターと部局との関係について厳しい意見もあった。（後で研究科長に個別説明を行った）

【部門再編について Ⅲ】

部門名の変更について関係部局で調整後、12月末に部門構成（一部変更）案を運営会議に諮り、1月中旬運営会議メール審議で了承、部門構成が確定したことで定年予定者の後任と部門再編に伴う昇任試験面接を実施、技術長・班長の昇任者が内定した。

【業務依頼・派遣システムについて Ⅳ】

業務依頼・派遣システムの再確認と職階による職責（9月に明確化した）の再認識のため現・新体制による技術長・班長説明会を開催した。再編した人員構成と業務依頼・派遣システムの試行は新体制（辞令発令前であるが）で臨むことを全技術職員に通知。職責に則り班長（現技術長・新技術長も協力）による班員の皆さんへ

のシステムの説明やヒヤリング、月次業務報告書の確認等を開始し、皆さんの協力により順調に終了した。2月上旬、配属先向けに業務依頼申請手続き方法等具体的な説明を個別に開始し、こちら現・新技術長の積極的な動きによって順調且つ早々に終了することができました。このように3年かけてシステム試案を構築し、4年目に説明と調整を繰り返して組織運営の基幹となるシステムが「ようやく、本格的試行」を迎えた。

【その他の主な活動について Ⅱ】

11月には大学行政管理学会の横田会長と鹿児島大学の大角氏を講師に招いて国大協中国・四国地区支部研修「技術職員マネジメントセミナー」を開催。今後も中国・四国地区の大学・高専の優秀なリーダー育成の場として組織マネジメント研修をメインにした情報交換・意見交換をするために継続していくことを確認し、各機関技術長クラスを中心にした中国・四国地区技術職員協議会（仮称）を立ち上げた。マネジメントセミナー開催前後には情報を収集して組織づくりの参考にするために、岡山大学工学部、徳島大学、鳥取大学医学部、名古屋大学、大阪大学産業科学研究所、山口大学工学部、熊本大学工学部の7大学の技術部を訪問した。岡山・徳島ではマネジメントセミナーの開催趣旨説明、鳥取へは同セミナー説明と病理・解剖・法医グループ化の実績状況把握のため、平成17年に情報交換会を行った名古屋大学全学技術センターへはその後の進捗状況の相互報告、産研報告会では全国の技術長クラスの参加者と意見交換を行い他機関の組織化状況の発表を聞いた。

第4回目となる技術センター研修会は、研修会準備担当者の発案で若い人に発表の場がつけられ、それぞれ個性が出た和やかな雰囲気の中で専門技術や業務内容の報告があり、事務部からの提案で広島大学ハラスメント相談室の横山先生にお願いした講演もありで、いつもとは一

味違う形で行われた。前述マネジメントセミナーで来学された他機関技術職員にも聴講参加していただき専門的な質問も多く出ていかにも技術研修会の体を成していた。鹿児島大学工学部の大角氏に講評をお願いし外部から見た印象を語っていただき、若い人の発表も好評であった。

第4号技術センター報告集の新編集委員会も編成後早速新企画を打ち出す等活発な動きで作業を進めておられるので任せっきりで安心しています。役割を分担し委ねることで若い人が育っていく楽しみが出てきて、活躍する場を提供すれば優秀な若い力が次々と現れる予感もしています。技術センターの将来のために皆さんの知恵と専門技術をどんどん発揮していただきたい。

昨年の「機器・分析技術研究会」、9月の「第19回情報処理センター等担当者技術研究会」、11月の「マネジメントセミナー」や「研修会」、年度末の「技術センター送別会」等技術センター開催行事での準備等における全部門を挙げたの協力、専門分野・各部門の協力・連携がしっかり取れるようになってきたことも明るく喜ばしいことである。業務依頼・派遣システムの本格的試行に入り技術センター（組織）としての正念場となる20年度を、このような技術職員間の協力し合う絆で乗り越え、今年度限りで

技術センターを去られる藤久保センター長に次号報告集でその経過報告をおこないたい。

技術センター組織運営の基盤システム構築に携わってきた者にとっては「ようやく」の思いで一杯であります。技術センター構成員の皆様からは「センター化されて良かった」と、外からは「よくぞ、ここまで」の言葉を聞くまでは組織～個人におけるPDCAによる継続的改善の繰り返しになります。「技術職員の職務を忘れることなく」を大前提に、多くの現場に配属（分散）されているという「ネットワーク」の利と机上作業に限定しない「フットワーク」を活かし、技術職員間、教員・事務部との「コミュニケーション」で組織の確立を進めていきましょう。

本紙面をお借りして、長年ご指導・ご尽力いただきました藤久保昌彦技術センター長に御礼申し上げます。學術部の皆様、ご協力・ご支援いただきありがとうございます。私の配属先（学校工場）の皆さんにも業務上の負荷をかけて申し訳なく思っています。勇木副統括による説明と調整のための資料作成力と二人の体力（フットワーク）を駆使しての1年であったことを皆様に報告し、最後になりますが技術センターパンフレットの改訂と本報告集発行にご労苦いただきました平成19年度技術センター報告集編集委員会の皆様に感謝申し上げます。